毎週月曜日更新

カタカタ通信

第１９５号

「草刈りとコウノトリ」

２０２５年9月２２日

開館当時のコウノトリは、場所にも人にも馴れていませんでした。除草は、大きな音を立てないよう、手に鎌を持ち、手刈りで行っていました。しかし、それだけでは追い付かず、奥の小ケージにコウノトリを移動させ、刈払い機を使った機械除草を行うようになりました。

しかし、繁殖期には、コウノトリたちをそっとさせておかなければなりません。小ケージにも移せないので、また手刈りで行うことにしました。やはりそうなると、どんどん草が伸びてきてしまいます。

なんとかならないかと、環境の変化や新しい作業に慣らしながら、試行錯誤を続けました。しばらくすると、コウノトリを片側に誘導しつつ、反対側の端から機械除草ができるようになりました。今では、特に空はすっかり馴れ、除草中も、草刈りから逃げる虫を求めて近づいてくるようにまでなりました。

草刈り前の大ケージ

奥から除草中　空の熱い視線と後ろから見る花

除草のための刈払い機では、鉄の円盤とナイロンの紐の２種類の刃を使っています。ナイロン紐での作業は、小石が飛んでガラスが割れてしまうことがあります。５～１０ｃｍと草を長めに残して切っているので、基本的に小石に当たることはありませんが、細心の注意を払って行っています。茎の硬いギシギシ（植物）が生えてくると、ナイロン紐では切ることができません。そんなときは鉄の円盤の出番です。こちらはきれいに切れますが、草が塊になります。これは空が度々池に運ぶことになりました……。（カタカタ通信第１９３回参照）

いつも池が草だらけでは大変なので、今回はナイロン紐の刃で細かく切りました。鉄の刃の倍以上の時間がかかり、バッテリーも交換しながらの作業でした。

コウノトリも時間をかけて馴れてくれたので、今では定期的に作業をすることができています。しかし、日常の中でなかなか行わないことはたくさんあります。まだまだコウノトリも飼育係も少しずつ進歩している最中です。あたたかく見守ってもらえるとうれしいです。

※刈払い機での作業は危険が伴います。しっかり講習を受けたうえで行っています。

除草後すぐに虫を探す空と花

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい